

江陵旭実に敗れ3位

女子札幌山の手 男子東海大四優勝

【札幌】バレーボールの第68回全日本高校選手権大会（春高バレー）道代表決定戦（道バレーボール協会など主催）最終日は15日、道立総合体育センター（北海きたえーる）で男女の準決勝と決勝が行われた。代表権の懸かった準決勝で、女子の江陵（道協会推薦）は旭川実（同）に0-2で敗れて、2年連続の3位となり、初の全国大会出場はならなかった。（北雅貴）

男子決勝は、佐藤史都（3年、緑南中出）が先発出場した東海大四（道協会推薦、札幌）が、杉本龍也（1年、札幌中出）のメンバー入りしたとわの森三愛（同、江

別）に2-1と競り勝ち、3年連続3度目の優勝を果たした。女子決勝は札幌山の手（道協会推薦）が旭川実に2-1で勝利し、2年連続4度目の頂点に立った。札幌山の手は道下ひなの（3年、帯七中出）、札幌大谷の本間夕稀（同、更別中央中出）が出場し、主力として活躍した。男女各上位2校は全国大会（来年1月5日開幕、東京体育館）の出場権を得た。



【女子準決勝・札幌山の手—札幌大谷】第3セットに22-19とリードを広げるアタックを決め、笑顔を見せる札幌山の手の前道下ひなの（中央、3年、帯七中出）



【男子決勝・東海大四—とわの森三愛】東海大四は第1セット、⑥佐藤史都（右、3年、緑南中出）のコースを突くスパイクで14-11とする



大応援受け粘り強く戦う 江陵 第2セットは互角

前日まで4面で繰り広げられた会場も、最終日は1面の特設コートに仕様が変わり、応援席のボルテージも最高潮となった。江陵は全国切符を懸けて、今夏のインターハイ出場校で第2シードの旭川実に挑んだ。



【女子準決勝・江陵—旭川実】江陵は第2セット、⑤平栗弥々（1年）がスパイクを決めて15-18と追いつける

第1セットは一方的に奪われたが、第2セットに息を吹き返した。平栗弥々（1年）のライト攻撃や九本有希菜（同）のブロックなどで7-2とリード。旭川実のU-20日本代表・廣瀬七海（3年）やキレのある

スパイクを放つ内野咲季（同）らの攻撃で4連続失点を2度喫しながらも、千葉このみ（1年）や坂井和主将（2年）らのレシーブ、

平栗のブロックに伊良つばさ（同）のスパイクで踏ん張った。九本と黒田沙耶（同）の速攻や、坂井主将

の時間差攻撃など第1セットには見られなかったコンビバレーも決まった。応援も、前日までの保護者らに加え、この日バス2台で駆け付けた野球部やテニス部、書道部の約70人の観客席からの大声援も後押しした。

坂井主将は「普通にやればできる」と手応えを感じつつも、互角に戦った第2セットも20-25に終わった現実と、第1セットのふがいなさに「自分たちの気持ちの弱さが出てしまった」と唇をかんだ。福田まどか監督も「私たちは江陵なんだというプライドも自信もない。やってきたことをチームの最初から出せないもつたない試合」と厳しい表情で振り返った。

1、2年生だけのチームながら2年連続のベスト4入り。それでも坂井主将は

「学年は関係ない。満足してはいけない」と気を引き締める。試合後選手たちは札幌山の手と札幌大谷のフルセットにもつれ込む準決勝を觀戦。旭川実を含む3強との精神面での差を肌で感じた。平栗は「エースの自覚をしっかりと持って、確実に決めるプレーをしないとけない。レシーブでもミスのない選手になるために練習で取り組まなければ」と飛躍を誓った。本気で全国へ。今大会を糧にまた新たな一歩を踏み出す。

元五輪代表成田さん 中学女子バレー講習 21日、見学自由

帯広バレーボール協会は21日午前10時から、帯緑園中体育館で女子中学生選手向けの競技力向上講習会を開く。

当日は元五輪日本代表の内へ。

成田郁久美さん（旭川市出身）が講師を務める。テーマは「レシーブからスパイクへのつなぎの強化」。当日は同協会が選出した40人を指導するが、一般の見学は自由。問い合わせは事務局の村上達也さん（0155-35-6593、帯八中内）へ。

【男子】	東海大四	2	2525	2	2525	0	釧路工
▽準決勝	とわの森	2	272025	2	252516	1	道尚志学
▽決勝	東海大四	2	302125	2	282520	1	とわの森
【女子】	旭川実	2	2525	2	2525	0	江陵
▽準決勝	札幌山の手	2	251525	2	212515	1	札幌大谷
▽決勝	札幌山の手	2	252125	2	212523	1	旭川実